

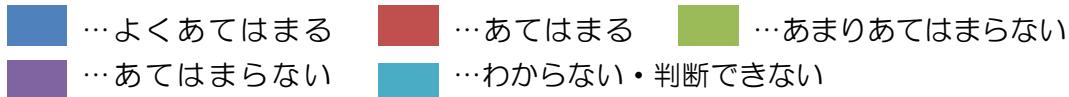
久米っ子だより

2025年12月12日 第15号

<https://kuwana.schoolweb.ne.jp/24020013>

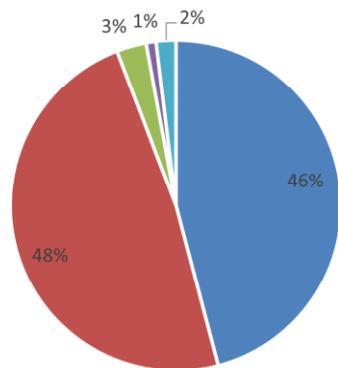
よりよい久米小学校をめざして～保護者アンケートより～

先日はお忙しい中、保護者アンケートにご協力いただきありがとうございました。結果の集計ができましたのでお知らせします。同時期に児童アンケートも行いましたので、今後の学校改善に活かしていきたいと思います。児童アンケートの結果については今後の号で掲載予定です。



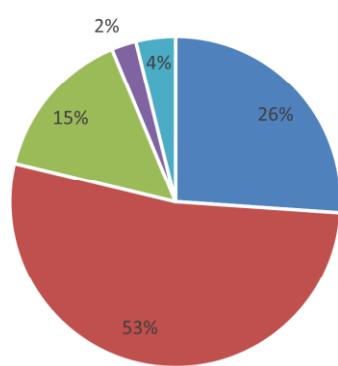
回答数：207（回答率84.8%）

①子どもは楽しく学校に通っている。



94%の方が肯定的なご回答でした。昨年度より増加していますが、そうは思えないという方が4%みえます。児童アンケートの結果でも昨年度より肯定的な回答が増加していますが、否定的な回答が10%あります。学校としては昨年度からの取り組みの成果が出ていると捉えていますが、すべての子どもたちが「学校に行くのが楽しい」と思える学校づくりに向けてさらに取り組みを進めています。日常的な児童観察をよりきめ細やかに行い、子どもたちの気持ちに寄り添った丁寧な聞き取り等を行いながら、悩み事や困り事などの解決に今後も取り組んでいきます。必要に応じてスクールカウンセラーやスクールハートパートナーも活用していきます。

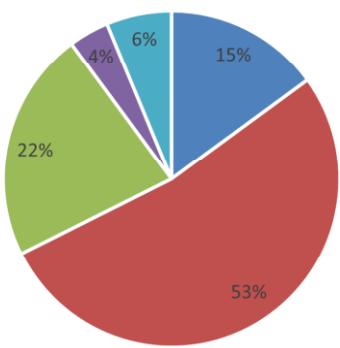
②子どもはあいさつができる。



肯定的な回答は79%でした。同じ項目で子どもたちの89%が「自分は進んであいさつをしている」と答えていますが、朝の登校時では積極的にあいさつができる子どもは70%ぐらいではないかと感じています。（これでも2学期のはじめに比べればよくなりました）

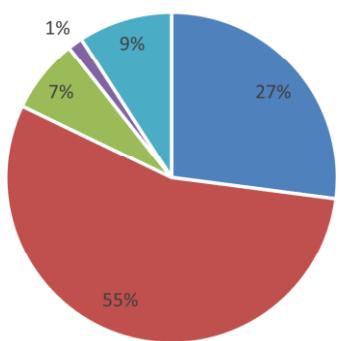
先日の学校運営協議会では、地域の方から「気持ちのいいあいさつをしてくれる」というお話を聞かせていただきました。学校としてはあいさつは大事だと考え、集会生活委員会発信であいさつ運動も定期的に行ってています。あいさつはする方もされる方も気持ちがいいことや、あいさつ本来の意味を自ら考えるなど、あいさつの大切さを子どもたち自身が実感できるよう取り組みをすすめています。

③子どもは「授業はよくわかる」「楽しい」と言っている。



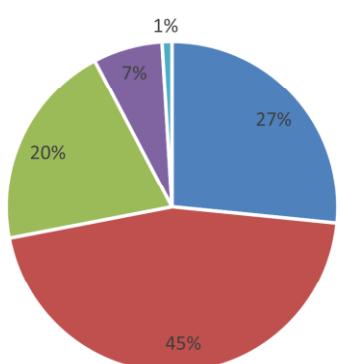
68%の方が肯定的なご意見でしたが、否定的な回答が26%、「わからない・判断できない」という回答が6%あったことを学校としては大変重く受け止めています。同じ質問で、子どもたちは85%が肯定的な回答をしており、保護者の皆様と子どもたちの捉え方に大きな開きがあります。保護者の皆様にとって、授業での子どもの様子が見えにくい、または保護者目線では「よくわかる授業」とは考えにくいのではないかということが言えると思います。教科担任制を活用しつつ授業改善をすすめ、楽しく学びながらより深い学びができるよう取り組みます。また、保護者の皆様にとってより透明性の高い授業のあり方について職員で協議し、改善していきたいと思います。

④子どもは学校のルールを守っている。



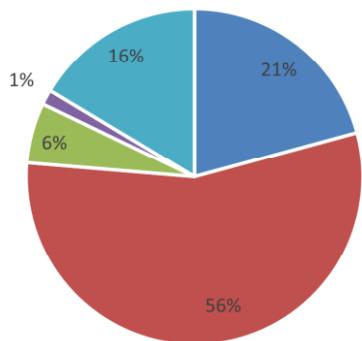
肯定的な回答が82%ありました。実際学校での子どもたちの様子を見ると、どの学年の子どもたちもルールはよく守っていると感じます。ただ、そもそも何のためにルールがあるのか、ということについてはあまり意識がされていないように感じます。例えば「廊下は走らない」というルールがありますが、これは「人や物にぶつかってけがをしたりさせたりしないため」であり、そのためにルール化をしています。ですが、それはあまり意識されておらず、「廊下を走らないこと」が目的になっています。「ルールだから守らなければいけない」ではなく、何のためのルールなのかが意識できるよう、日常的に子どもたちと考えていきたいと思います。

⑤子どもは毎日家庭学習をしている。



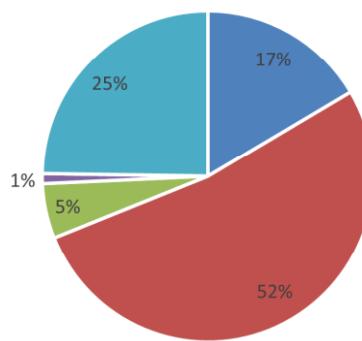
72%が肯定的なご回答でした。一方で27%は否定的なご回答でした。昨年に比べて否定的な回答が若干増加しています。過度な負担にならないよう、「家庭学習」の内容や量については担任あるいは教科担任が工夫・調整しています。子どもたちの興味や関心に基づく自発的な家庭学習についても「自学ノート」を準備するなどしていますが、学校外での学習については定着がなかなか難しいようです。家庭学習の内容をさらに精選し、子どもたちが取り組みやすい内容にしていきたいと思います。ご家庭におかれましては、家庭学習（宿題）を「やったか」か「やっていないか」に注目するのではなく、「どんな内容か」「困っていることはないか」といったお声掛けをしていただけるとありがとうございます。

⑥学校は一人一人の子どもを大切にした指導をしている。



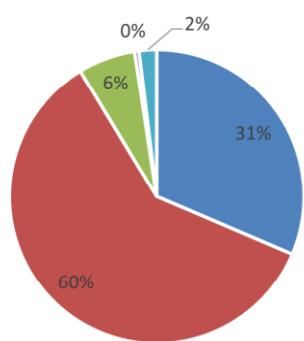
77%が肯定的なご意見でした。16%の方が「わからない・判断できない」と回答されたことについて、学校の取り組みがしっかりとお伝えできていないと反省しています。学校では、「すべての子どもたちにとって学校が安心できる居場所」であるよう、全教職員が日常的な子ども観察をおこない、情報共有を密にしながら適宜適切な指導を行いうよう意識しています。情報共有後の「指導」「ケア」「支援」等を迅速に行い、保護者の皆様へのお知らせを確実に行うよう職員で確認しています。また、「一人一人の子どもを大切にする」ための取り組みの主語が「教師」ではなく「子どもたち」になっているか、自己評価を常に意識しながら取り組みをすすめています。当たり前のことでありますが、一人一人の子どもを大切にし、子どもたちが予測困難なこれからの社会をよりよく生きていくための力の育成に努めて参ります。

⑦学校はいじめのない学校づくりに努めている。



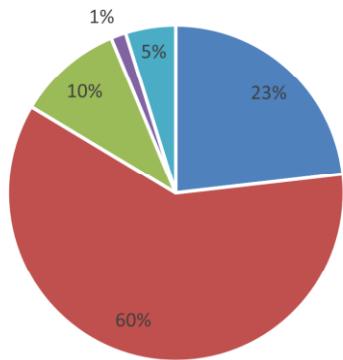
69%が肯定的なご意見でした。昨年度と同じ割合でした。25%の方が「わからない・判断できない」と回答されたことについて重く受け止めています。いじめとは判断できないことであっても「これはいじめにつながるのではないか」という事案が発生した場合に、速やかにそして丁寧に保護者の皆様と情報を共有し、解決に向けて具体的に行動することが大切だと考えます。「いじめ」は心と体を壊す人権問題だと考えます。子どもたちの人間関係等からいじめに発展することのないよう、早期発見・早期対応に努めていきたいと思います。また、「いじめとはどういうものか」「なぜいじめはいけないのか」等について、子どもたち自身が考え、振り返る機会を1年を通じて設けることで、日常的ないじめ防止に努めていきたいと考えます。お気づきの点がありましたら是非学校までお知らせください。

⑧学校はたよりやホームページや行事を通して子どもの様子を伝えている。



91%が肯定的なご意見でした。学年だよりや学校だより等に目を通していただいていることや、運動会やオープンスクールなどの行事にお越しいただいていることに感謝申し上げます。「子どもを主語」にした行事づくりや、各種だより、totoruを使ったお知らせ等を丁寧にしてきたことの成果かなと思います。また、スクールソポーターの皆様をはじめとして、保護者の皆様や地域の皆様に来校していただき、子どもたちに関わっていただける機会を継続的に持てたこともよかったです。今後も子どもの様子はもちろん、学校の様子や、力を入れている取り組みについてもご理解いただけるよう努めて参ります。

⑨保護者は困り事や心配事を学校に相談しやすい。



83%が肯定的なご意見でした。昨年度より5%、一昨年度より20%増加していることは大変嬉しいです。ただ、10%強の方が否定的なご意見だったことも事実です。学校として今後のあり方をさらに問い合わせなければなりません。最近、ネガティブな事案の認知が遅れがちな傾向があると感じています。学校として大いに反省すべきことであり、日常の児童観察を実のあるものにしていくことを職員で確認しました。また、保護者の皆様と学校とのコミュニケーションが課題解決の大きな力になると思います。お家で気になることがあれば、学校にお知らせいただけたとありがたいです。保護者と学校は立場は違いますが、めざすところは同じだと思います。よきパートナーとして、子どもたちのよりよい成長をめざしたいと思います。今後も双方向の対話が気軽にできる環境づくりに努めて参ります。

以前職員で、「10年後はどんな社会になってるだろう」というテーマで雑談会を行いました。「AIが進化して・・・」という話がたくさん出てきましたが、最終的に「多様性」「共生」「想定外」というワードに行き着きました。これまでの10年の社会の変容を振り返ると、これから10年は予測が大変難しいです。しかし、社会がどのように変化しようとも、久米小がすべての子どもたちにとってよりよくあり続けるために「今、何を大事に学校づくりをすすめていいのか」ということに思考が戻ってきます。「地域とともにある学校」を基軸として、保護者や地域の方との「顔の見える関係」を大切にし、双方で子どもたちのために「大事なことは何か」を考えしていくことを決してないがしろにしてはならないと改めて思います。

学校教育は「だれ一人取りこぼすことなく、安全で安心して学べる教育を提供する」ことが最も重要視されなければならないと思います。学力向上や体力向上ももちろん大事ですが、「向上」を意識しすぎて上ばかり見ていたら足下がおろそかになってしまいます。子どもたちにとっての足下になる、「学校の（学級の）心理的安全性」を確保し、子どもたちが安心できる学校づくりをすすめることが学びの深まりへとつながります。「子ども主体の学校づくり」をすすめることで、すべての子どもたち・保護者の皆様・地域の方々に信頼される学校づくりをしていきたいと考えます。

今年度本校の学校教育目標は「社会をよりよく生きる『自律する子ども』の育成」です。子どもたちが自ら課題意識を持って、自ら考え、判断し、実行して、課題を解決していく「自律する力」の育成に取り組んでいます。「自律」は今後の予測困難な時代を生き抜くためのキーになると考えます。目標の達成のためには保護者・地域・学校の連携は不可欠です。「どうしたの?」「あなたはどうしたいの?」「何か手伝えることはある?」という3つの言葉がけから、子どもたちの自己決定の場面を活用して子どもの「自律」を育みたいです。ご家庭においても自己決定の場面をつくっていただければと思います。

また、「子どもが主語」の授業（教師による一斉教授型の授業ではない授業）を目指し、「学ぶ楽しさ」を実感できるよう授業改善を継続します。子どもたちからの「問い合わせ（なぜ？いつ？どこ？どうして？なにが？等）」の答えを、授業の中で子どもたちの協同作業によって見つけていく活動を通して学びを深めていきたいと思います。

すべての子どもたちが笑顔であるよう、保護者の皆様・地域の方々からの声を真摯に受け止め、連携・協力しながら学校づくりをすすめていきたいと思います。